

整理番号： 7 - 2

提言題名：図書館司書及び学校図書司書について

【提言の要旨】

取手市の図書館を利用して半年ほどが経ちました。私は司書の資格を所持しており、実際数年間正規職員で働いていましたが、取手市の図書館の蔵書は大変素晴らしく、どの年代の本を探してみても良書がきちんと初版で購入されており、司書の方の腕のすごさに驚かされます。

司書という職業は本の管理や貸出や出会いの場の提供だけではなく、情報の真偽を確かめるプロでもあります。情報を見定めて提供すること（レファレンス）も大事な仕事だからです。現代の情報が錯綜する世の中で、正しい情報を見抜く目を持っています。また、そうあるを常に考えています。

取手市は学校司書も全校に配置したとの事で、素晴らしいことだと思います。都内の学校の図書室を改善する仕事を立ち上げたことがあります。やる気はあっても図書室のことがわからない教員の方々が大変苦労されている様子を見ました。そこにプロの手が入れば図書室がきちんと運営されますし、同時に情報の取得の仕方や見極め方についての授業も捗ることと思います。子どもたちにとって、それはひとつの武器です。情報の真偽を確かめられる大人に育てば、ひとつとても強力な武器を持って社会に出ることが出来るからです。未来に向けてとても素晴らしい教育をしているのです。

専門分野の知識を発揮して仕事をするということは間違いなくプロの仕事であり、正規職員の仕事なのですが、文化芸術となると非正規雇用でもいい、という流れが当然のように日本中に流れています。図書館司書および学校司書は正規職員であるべきです。お金もそうですが、まず責任とプライドが伴います。自信がつかます。また、それによって仕事の質が保たれます。研修にある程度のお金を出してもらって行く事が出来ます。長期的に見るといい事しかないのです。

(令和2年8月受付)

【回答の要旨】

1. 図書館司書について

現在、取手市立図書館の中で勤務している職員は「一般行政職」（正規職員）と「会計年度任用職員」（非正規職員）の2つに分かれております。正規職員は「図書館司書」の資格を有し専門的な業務に携わる者と、施設管理や予算・教育委員会などの対応等の事務職員が配属されています。

一方、非正規職員の「会計年度任用職員」は図書館勤務を希望する人の中から採用され勤務しており、原則として図書館業務以外の業務にはつきません。職務としまして主に受付カウンター業務を行っていますが、司書資格を有する職員はレファレンス業務や絵本の読み聞かせ、テーマコーナーや図書館行事の企画・実施に携わるなど正規職員の事務をサポートし

ています。そのため司書資格を有する人は報酬の面で優遇されます。さらに、司書資格を有する職員のうち勤務時間が一定以上の職員には県立図書館で実施される研修に正職員とともに参加し、業務のレベルアップを図っています。

上記の状況から図書館としましては、正規職員と非正規職員のバランスを計り必要な人材を確保していくことで、安定した図書館運営が図られていると考えています。

(取手図書館 令和2年9月回答)

2. 学校司書について

取手市では平成28年度より、公立小中学校全校に学校司書を配置し、現在は「会計年度任用職員」（非正規職員）として任用しております。学校司書は司書教諭と連携し、児童生徒が読みたくなる図書の選定や、調べ学習の支援、学校図書館の環境整備などを行っております。ボランティアの方々による読み聞かせや、教員・児童生徒による図書の貸出を行っている学校もあり、学校や地域全体で読書活動の推進に取り組んでおります。また、春と秋の年2回、全校の学校司書を対象とした研修会を実施し、他の学校で実施したイベントや啓発活動などの取り組みを情報共有することで、より良い学校図書館の運営が図られていると考えております。

「学校司書は正規職員であるべき」「正規職員と非正規職員を選択できることが重要」とのご意見についてですが、学校には、夏休み・冬休み・春休みがあり、児童生徒は学校におりませんので、休業期間の学校図書館の運営は他の教職員で対応することが可能であると考えております。市の限られた予算の中で、学校の実情に応じた学校司書の配置を考えた際には、「非正規職員」による雇用が適していると考えております。

(学務給食課 令和2年9月回答)

正規職員になることで仕事に責任とプライドが伴う、自信が生まれるという一面もあるとは思いますが、現在取手市において非正規職員として勤務いただいている職員も「本が好き」「人の役に立ちたい」など高い心意気で日々業務に取り組んでおります。